



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3891 号 2017.9.11 発行

つんく 障害者支援ソングで紅白狙う！「頑張りましょう」 東スポ 2017年 9月 10日



つんく (左) と Beverly

音楽プロデューサーのつんく (48) が10日、都内で行われた「LIVES TOKYO 2017 はたらく・たべる・わらう」に出席した。

このイベントは、障害者のための働き方改革プロジェクト「LIVESプロジェクト」が開催したものだ。2014年に咽頭がんを患い、声帯を摘出したつんくはチャットアプリを使って、司会を務めた障害者の男性とやりとりした。

この日は自ら作詞・作曲した、同プロジェクトのテーマ曲「Happy now」も披露。同曲での大みそか「NHK紅白歌合戦」出場を勧められると「はい、紅白目指して頑張りましょう！」「でも、まじで、それがかなうと日本も明るいね！」などと笑顔で返した。

つんくの指名で「Happy now」の歌い手に選ばれたのは、大ブレイク中のBeverly (23)だ。「とってもうれしいです。つんくさんと一緒にお仕事ができ、そして本当に素晴らしい『LIVES TOKYO』に参加できて光栄です。この曲を聞いて幸せになってくれたらうれしいです」と、つんくのギターのリズムでしっとりと歌い上げた。

歌唱の最後には会場中の人による合唱となり、出席していた安倍昭恵首相夫人も壇上上がった。感激した様子で「この会場のような社会が広がったらいいなあ、今回本当に思いました」と涙ぐんだ。

障害者40人、胸打つ表現 岩見沢「アール・ブリュット」展

北海道新聞 2017年 9月 10日



情熱的なダンスを披露した矢萩さん(右)とサスポータスさん

【岩見沢】

全道の障害者約40人が手がけた芸術作品約300点を展示する

「北海道アール・ブリュットフォーラム in 岩見沢 2017」



(実行委や市など主催)が9日、市民会館まなみーるで2日間の日程で開幕し、来場者が独創的な絵画やオブジェを鑑賞した。

岩見沢開催は昨年につき2回目。開会式に続き、ダウン症のダンサー矢萩竜太郎さん(東京)とフランス人ダンサーのジャン・サスポータスさんがコントラバスの演奏に合わせダンスを披露した。10日は午前10時~正午で入場無料。(町田誠)

【落語は「笑点」だけにあらず】 厳しい師匠から得たものは…介護福祉士から転職した古今亭始(はじめ)

産経新聞 2017年9月10日

古今亭始(はじめ)(33)は、高校卒業後、介護福祉士をやっていて、勤務していた病院でのレクリエーションの時間に、手品や紙芝居で患者を楽しませていた。ネタも尽きて、当時、テレビドラマではやっていた落語をやりようと考えた。

落語は実際に見たことなかった。たまたまオンデマンドTVで、落語のストーリーのアニメを見て、それを覚えて、みんなの前でやった。噺は「目薬」だった。認知症の患者が多く、反応はあまりなかった。あとで分かるのだが、入門して、師匠のうちを掃除していたときに、そのDVDを見つけた。アニメの声は師匠だったことを知る。

その後、寄席でも見るようになり、「人を楽しませるのが好き」ということで、それまでの仕事を辞めて、落語家になることを決めた。入門を頼むまでも時間がかかり、さらに入門を許されるまでも時間がかかった。入門を許されるまで、師匠の自宅を訪ねた回数は10回以上だった。アルバイトをしながら、入門が許されるのをずっと待ち続けた。



古今亭始

始が選んだ師匠は、とても厳しい人だった。落語界では、誰もが知っているほどの厳しさだ。それでも、着物のたたみ方から、太鼓まで、全てを師匠に教わった。しくじりも多かった。それでも愚痴は一切言わなかった。

二ツ目昇進が決まったときには、ちょうど師匠をしくじっていたときで、師匠からしばらく口も聞いてもらえなかった。もう手ぬぐいの注文の締め切りで、「どうしようか」というときに、師匠から「これっ」と、紙を渡された。そこには、新しい名前の「始」の文字と、手ぬぐいのデザインが描かれていた。

その名前の「始」は、「これからがはじまりなんだ」と、自身では思っている。普通、師匠の名前の一文字をもらうことが多く、その名前からは、誰の弟子かは分からない。師匠も「俺の弟子だといって仕事をもらうな」と、言った。だから、今でも、始は師匠のことは高座では言わない。

今は、噺を増やすために、毎月ネタ卸をやっている。しかし、ただ覚えてやっているだけでは、プロではないと思う。考えながら噺を覚えている。自分らしさを出すためには、どうすればいいか。「ネタは広く選んでいるつもり」だ。

「お前の落語は、俺が俺がになっている。ただ受けたい、受けたいだけ。損得しか考えていない」と、師匠から厳しく言われる。

「厳しいですね。でも、うれしい。ありがたいことです」と、始は話す。二ツ目になった今でも、師匠の存在はとても大きい。

「自分の人生なんだから、考えろ」と、師匠が常にいっているようだ、と始は思う。今でも、常に師匠の言っていることが頭から離れない。だから、背伸びをしてやるつもりもない。

「みんなに笑顔になって、帰ってもらおう」ことだけを考えている。「楽しく、やりがいがある。落語家になってよかったと思う」と、始は言った。=敬称略 (地方部 松垣透)

経歴 平成21年7月、古今亭志ん輔に入門。22年1月、前座。前座名・半輔。26年6月、二ツ目昇進。古今亭始となる。

「きみといっしょに」生きる社会を 福祉施設うりずんでイベント 宇都宮



下野新聞 2017年9月10日
ステージパフォーマンスが人気を集めた「ふれあいまつり
INうりずん」

【宇都宮】「ふれあいまつり INうりずん」が9日、徳次郎町の重度障害児・家族支援施設「うりずん」で開かれ、利用者や地域住民など約400人が秋の一日を楽しんだ。

今回のテーマは「きみといっしょに」で、障害など生きづらさを抱えた人たちを支援する県内6団体が共催し、ステージやブースで活動を紹介

した。企業なども協力して祭りを盛り上げた。

ステージでは、国際医療福祉大のダンスチームやうりずん職員のパフォーマンスが人気を集めた。

知的障害の男性が大けが 施設内で暴行の疑い 宇都宮

NHK ニュース 2017年9月10日

宇都宮市の障害者支援施設でことし4月、入所していた知的障害のある20代の男性が腰の骨を折って一時、意識不明となる大けがをしていたことが捜査関係者などへの取材でわかりました。警察は施設内で暴行を受けた疑いがあると見て、傷害の疑いで捜査しています。

捜査関係者などによりますと、宇都宮市の障害者支援施設で、ことし4月、入所していた知的障害のある20代の男性が体調不良を訴え、病院で手当を受けたところ、腰の骨を折るなどの大けがをしていることがわかりました。

男性は一時、意識不明になりましたが、現在は回復に向かっているということです。

警察は施設の関係者や男性の家族から事情を聴くなどしていますが、けがの状態や現場の状況などから、施設内で暴行を受けた疑いがあると見て、傷害の疑いで調べています。

この施設は宇都宮市にある社会福祉法人が運営する知的障害者などの生活支援を行う施設で、およそ30人が入所し、日中は8人、夜間は2人の職員が勤務しています。

施設を運営する法人の代表は「入所者がけがをしたのは確かで、誠に申し訳ないが、職員に聞き取りをしたところ、暴行した事実は確認できなかった。事実であれば真摯（しんし）に捜査に協力したい」としています。

“1リットル以上の出血” 入所者を暴行の疑い 障害者施設を捜索

NHK ニュース 2017年9月11日

宇都宮市の障害者支援施設で知的障害のある入所者の男性が腰の骨を折るなど一時、意識不明となる大けがをした事件で、男性は腹部に1リットル以上の出血があったことが施設側への取材でわかりました。警察は男性が施設の職員から暴行を受けた疑いがあるとして、傷害の疑いで施設などを捜索しています。

捜索を受けているのは宇都宮市の障害者支援施設「ビ・ブライツ」と、施設を運営する社会福祉法人「瑞宝会」の本部で、午前8時すぎ捜査員が捜索に入りました。

警察の調べによりますとことし4月、この施設に入所していた知的障害のある20代の男性が体調不良を訴え、病院で詳しく調べたところ、腰の骨を折るなどの大けがをしていることがわかりました。

男性は一時、意識不明となり、現在は回復に向かっているということです。病院に搬

送された際、男性は腹部に1リットル以上の出血があったことが施設側への取材でわかりました。

警察は医師の診断で外部から強い力が加えられたと見られることや職員の証言などから、男性が施設の職員から暴行を受けた疑いがあるとして、傷害の疑いで施設などを捜索し詳しい状況を調べています。

社会福祉法人の理事長は「施設内だけで人が出て深く反省している。内部で調査したところ、虐待があったことは確認されていないが、警察の捜査は真摯（しんし）に受け止めたい」としています。

なぜ？被災3県ワイン造り活発化 ワイナリー倍増のわけ 川村直子

朝日新聞 2017年9月11日



ブドウ畑でボトルを手にする、斎藤誠治さん（左から3人目）ら「ふくしま農家の夢ワイン」のメンバー＝福島県二本松市、川村直子撮影

東日本大震災で被災した岩手、



宮城、福島県でワイン造りが活発化している。ブドウを育む風土を映し出すといわれるワインで、郷土の魅力を伝え復興を後押ししたい――。震災後に植えたブドウが実り、収穫の季節を迎えつつある。ワイナリーは3県で震災前のほぼ倍の17社に。さらに広がる勢いだ。

7月、盛岡市のホテルであった「いわてワイン生産アカデミー」。岩手県が今年度から始めた、起業に必要な知識や技術の習得を目指す講座に、約30人が参加した。大船渡市の及川武宏さん（38）は「故郷に百年続く文化をつくりたい」と起業を決意。かさ上げした土地で醸造所を開設予定だ。NPO「遠野まごころネット」で障害者の就労支援に取り組む小谷雄介さん（50）は農業、福祉、観光がつながる仕組みをつくろう、とアカデミーに参加した。「障害のある人が復興に取り残されないよう、一緒に被災地を盛り上げたい」。障害者と健常者が共に働き、集う場として、釜石市で3年前から醸造用ブドウを栽培している。

県内では内陸部を中心に5社だったワイナリーが10社に増え、沿岸部にも広がった。県の担当者は「温暖化でこれまで適さなかった品種が熟すようになり、多様なワインを造れるようになった。将来は一大産地を目指したい」と意気込む。

パラバドミントンの国際大会、鈴木らが優勝

日本経済新聞 2017年9月11日



女子シングルス（上肢障害SU5）で優勝し、表彰台で笑顔の鈴木亜弥子（10日、町田市立総合体育館）＝共同

日本で初めて開催された障害者バドミントンの国際大会、ジャパンパラ国際は10日、東京・町田市立総合体育館で各種目の決勝が行われ、女子シングルス（上肢障害SU5）で世界ランキング1位の鈴木亜弥子（七十七銀行）が中国選手に2―1で逆転勝ちし、優勝した。

同シングルス（車いすWH2）では山崎悠麻（調布市役所）がタイ選手に2―1で競り勝ち、男子シングルス（下肢障害SL3）は藤原大輔（LINE）が英国選手に2―1で勝った。

男子シングルス（上肢障害SU5）では浦哲雄（グリーンスタンプ）がマレーシア選手に0-2で敗れた。〔共同〕

籠池夫妻をきょう追起訴へ 今後は国有地売却の捜査が焦点

NHKニュース 2017年9月11日

学校法人「森友学園」をめぐる事件で、大阪地検特捜部は、籠池泰典前理事長と妻が、大阪府と市の補助金合わせて1億円余りをだまし取っていたとして、11日、詐欺などの罪で追起訴する方針です。補助金不正の一連の捜査はこれで終結する見通しで、今後は国有地の売却をめぐる捜査の行方が焦点になります。

森友学園の前の理事長の籠池泰典容疑者（64）と妻の諄子容疑者（60）は、学園が運営する幼稚園で障害のある子どもや専従の教員の数を水増しし、大阪府から9200万円余りの補助金をだまし取ったなどとして、先月、詐欺などの疑いで逮捕されました。

大阪地検特捜部は、2人が障害児のための大阪市の補助金430万円余りや別の幼稚園に対する府の補助金620万円余りをだまし取ったとする告訴も受理し捜査を進めてきました。

その結果、2人が府と市からだまし取った補助金の総額は1億円余りになるとして、勾留期限の11日、詐欺などの罪で追起訴する方針です。2人はすでに、大阪・豊中市で進めていた小学校の建設工事で国の補助金5600万円余りをだまし取ったとして起訴されています。

捜査関係者によりますと、今回の追起訴で、補助金の不正をめぐる一連の捜査は終結する見通しで、2人はこれまでの調べに対し黙秘を続けているということです。

一方、特捜部は、国の担当者が国有地を不当に安く売って国に損害を与えたとする背任容疑での告発も受理し、近畿財務局などの関係者から事情を聴いていて、今後は国有地の売却をめぐる捜査の行方が焦点になります。

生活支援ロボ、団地に開発拠点 お年寄り世帯に体験も 松永佳伸

朝日新聞 2017年9月11日
転倒を防止する歩行支援ロボット（愛知県豊明市、藤田保健衛生大提供）



お年寄りの安全で快適な暮らしをロボットが支える。そんな日が近づいているのかもしれない。藤田保健衛生大学（愛知県豊明市）が12日、小型の生活支援ロボットの研究拠点を開く。実際にお年寄りに使ってもらいながら改良していくという。

■実際に使って改良へ

人間のような形をした高さ約80センチの「サーバントロボット」は、床に落ちた物を拾ったり、棚の物を取り出して運んだりして生活を支援する。要介護者向け車いす型の「移乗支援ロボット」を使えば、介助者なしで座ったまま、トイレの便座や食卓のいすに移れ

る。いずれも豊明市の豊明団地内に設けられる「ロボティックスマートホーム（RSH）」で開発中のロボットだ。

広さ75平方メートルの1LDKには色んな工夫が凝らされている。天井に張り巡らされたレールからぶらさがる可動式の「歩行支援ロボット」は転倒防止が目的。体を固定して、寝室やリビング、台所などに行ける。医師の助言を受けながら画面の前で体操ができる遠隔コミュニケーションテレビや、尿で健康がチェックできるトイレも設置する予定だ。

1971～72年に建てられた豊明団地には約4千人が暮らし、そのうち約3割が65歳以上のお年寄り。ひとり暮らしも約360人いるという。藤田保健衛生大は2015年、豊明団地内に「保健室」を開き、大学の看護師や保健師らが住民の健康管理を支援してきた。今後、保健室の利用者にRSHの体験を勧め、寄せられた意見を機能改善などに生かす考えだ。

RSH・活動支援機器研究実証センターの田辺茂雄センター長補佐は「さまざまなロボットや支援機器を導入したい。役立つ製品づくりのためにも多くの人に体験してほしい」と話す。

ITでシェアビジネス広がる 京都や滋賀、遊休資産活用 京都新聞 2017年9月11日
インターネットを活用して場所や物品を共有するシェアビジネスが、京都や滋賀でも広がり始めている。店舗の空きスペースをチラシの配布場所や荷物の預かりに利用したり、自宅の車庫を一般に貸し出したりするなどのサービスが拡大。企業や個人だけでなく、自治体も積極的な活用に取り出している。

グラフィックデザインのユキサキ（京都市右京区）は、チラシを配りたい事業者や個人と、空きスペースを活用したい店舗を仲介するサービス「エーヨ！」を昨秋始めた。飲食店や美容院などが棚やカウンターの一部をチラシの置き場所に貸し出す仕組みで、京都などの約40店舗と提携する。

料金は1日100円前後で、商品の宣伝やライブの告知などに活用されている。神野太志社長は「利用者はお店を一軒一軒回って『チラシを置いてほしい』と依頼する手間が省ける。店舗側も家賃負担の軽減につながる」と利点を話す。

a k i p p a が提供する個人宅の駐車スペース。予約可能な点や低料金が受けているという（京都市山科区）

■スペースや車庫貸し出し、子育て分野も
店の空きスペースを荷物預かりに活用するサービスを手がけるe c b o（エクボ、東京都）は4月に京都府内に進出。嵐山やJR京都駅前など約60カ所の飲食店や宿泊施設などで預かりを始めた。

スーツケース程度の大きさであれば1日1個600円で預かる。提携する酒販売店、福本酒店（西京区）の福本和子さん（64）は「預けるついでに買い物もしてもらえれば」と波及効果に期待する。

未契約の月決め駐車場や個人宅の車庫を一般に貸し出すサービスを全国展開するa k i p p a（アキッパ、大阪市）も、提携先を京都府内約630カ所、滋賀県内約120カ所に広げた。7月からは京都市都市整備公社と提携し、岡崎公園駐車場（京都市左京区）を同社のシステムで利用すると、レンタサイクルを無料で使用できる取り組みを始めた。

各社のサービスに共通するのはスマートフォンなどで簡単に場所の検索や予約、料金決済ができる点だ。IT（情報技術）を活用して遊休資産を提供したい人と使いたい人のマッチングを進め、利用料の一部を収入源にして成長している。



こうした取り組みに自治体も注目する。大津市は「子育てシェアリングエコノミー交流会」を10日午前11時半から同市の商業施設、フォレオ大津一里山で開催する。子どもの預かりや送迎を知人間で依頼するサービスを手掛ける「AsMama」（アズママ、横浜市）など、子育て分野のシェアビジネス企業4社を招き、パネル討論や展示紹介を行う。

市子ども家庭課は「行政による子育て支援にも限界があり、その隙間をシェアサービスで埋めたい。まだ市内で実施例は少ないが、これを機に普及させたい」と言う。

婦人保護施設に母と入る子が増加 職員配置の加算拡充へ

福祉新聞 2017年09月11日 編集部

厚生労働省は婦人保護施設に母親と同伴して入所する18歳未満の子どもが増えていることを受け、2018年度から同伴児に対応する職員の配置を増やす方針だ。現在、最大で3人配置できる措置費の加算があるが、これを5人に増やす。18年度の予算要求に盛り込んだ。しかし、現在もこの加算は十分に活用されていない。施設側は人員配置基準の改善など抜本的な見直しを求めている。

同伴児をめぐっては、児童相談所の関与が薄く、通園・通学もできない「宙に浮いた存在だ」とする指摘がこれまでもあり、09年度から措置費に加算が設けられた。

昨年12月には性暴力被害者支援に関する与党のプロジェクトチームが、同伴児の問題を含め、婦人保護事業を抜本的に見直すよう提言をまとめた。

婦人保護施設は売春防止法に基づく施設。売春するおそれがあるなど保護の必要な女性が措置により単身で入所することが基本だ。16年4月現在、全国に48施設ある。



しかし、2001年のDV防止法制定後は、配偶者から暴力を受けた女性の緊急入所が増えるにつれ同伴児も増加している。一方で、施設の人員配置基準（例・定員50人以下は指導員2人）は同じままだ。

部屋の前の廊下にベビーカーが並ぶ 婦人保護施設

厚労省の統計によると、15年度の同伴児の延べ人数は06年度に比べて約2割増加。また、厚労省研究班の調査によると、14年度に措置入所した女性の約3割が子ども（実人数518人。その7割が乳幼児）を同伴した。

この518人を計29施設が受け入れたが、そのうち同伴児対応職員の加算を算定した施設はわずか8施設で、対象となる職員（非常勤）は11人にすぎなかった。

加算の算定には同伴児が一定数以上必要のため、小規模な施設では要件を満たすことが難しいからだ。18年度から職員4人を配置するには、1日当たりの同伴児16人以上という要件になる見込みで、複数の施設から「非現実的だ」との声が上がっている。

全国婦人保護施設等連絡協議会の横田千代子会長は「同伴児は障害のある子もいて年齢もさまざま、人数が少なくても職員の手はかかる。本来は加算ではなく、基本の人員配置基準を引き上げるべきだ」としている。

岡山の障害者A型事業所、8割が経営改善「必要」 朝日新聞 2017年9月11日

岡山県倉敷市にある障害者の就労継続支援A型事業所が閉鎖され、利用者が一斉に解雇された問題で、県が所管する49のA型事業所のうち、指定基準を満たさず、経営改善の必要がある事業所が8割を占めることがわかった。伊原木隆太知事が8日、9月定例県議会の代表質問で明らかにした。

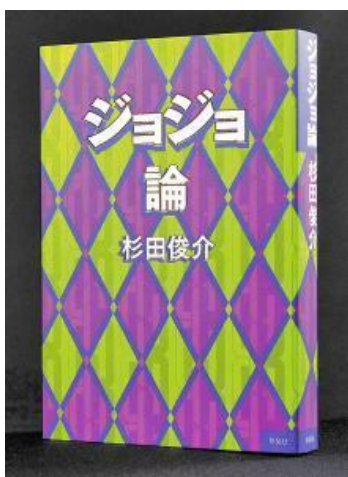
4月に障害者総合支援法に基づく指定基準が改正され、利用者の賃金の総額以上の事業

収益を確保することなどが明記された。

指定基準の改正を受け、国が全国の自治体に調査を要請。県が5月末～6月末に実施したところ、約40の事業所が基準を満たしていなかったという。

県は、事業の生産性があがらずに補助金頼みの経営をするなど、指定基準を満たしていない事業所に対し、経営改善計画の作成を指導している。すでに23事業所から提出を受けているという。

伊原木知事は「今後、雇用開発助成金に依存した経営からの脱却や生産性の向上に向け、ヒアリング調査をしたり、専門家を派遣したりする」と述べた。(村上友里)



『ジョジョ論』 杉田俊介著 読売新聞 2017年09月11日 弱点こそが最大の能力

「ジョジョ」すなわち『ジョジョの奇妙な冒険』といえば、今年で連載30年を迎える荒木飛呂彦作の超人気マンガである。ミケランジェロの彫刻のように美しく個性的な登場人物たち、ミラノのファッションブランドのようにきらびやかな衣装、そして少年マンガの王道たるめくるめくる死闘と仲間との友情が特徴だ。一方で本書の著者は、障害者ヘルパーとして働く評論家であり、これまでに扱ってきたのはむしろ、男性の弱さや障害といった問題だ。意外なこの組み合わせ、興味をひかれられないわけがない。

『ジョジョ』を論じるために著者が召喚する比較項は、何と自己啓発本である。確かに『ジョジョ』は、自己啓発的な惹句に満ちている。「真の『失敗』とは、挑戦を忘れた者たちの事をいうのだッ！」己の潜在的な能力を信じ、強い覚悟をもってのぞめば、必ず道は開ける。これが両者に共通する基本メッセージだ。

しかし『ジョジョ』には自己啓発本とは決定的に異なる点がある。自己啓発本において、病や障害といったネガティブな要素は、成功に至るためのステップでしかない。それらはいくまで乗り越えられるべきものであり、その根底にあるのは市場経済的な価値観や能力主義だ。一方『ジョジョ』においては、だれもがかかえる弱点や病、狂気、障害といったものこそが、その人物の最大の潜在能力として扱われている。その象徴が「スタンド」と言われる、その人固有の守護霊のような存在だ。

ひきこもりの男が持つ、巨大な鉄塔のスタンド。過去に犯した罪をひきずる男の、対象の時間を操る能力。こうした事例に、著者は自らの経験をならべてみせる。例えばあるヘルパーには知的ハンディがあったが、彼といるときだけ、問題を起こしやすい自閉症の少年がリラックスしていたという。『ジョジョ』の鮮やかな作品分析であるのみならず、弱さを強く生きる方法を教えてくれる。

◇すぎた・しゅんすけ＝1975年神奈川県生まれ。批評家。著書に『宮崎駿論』『非モテの品格』など。

作品社 1800円

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

